

## 「仲間と暮れゆく山を見る」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

林間学校の夕方といえば、普通は宿舎で夕食をとるか、飯盒炊さんの食事づくりで忙しいことが多い。私はこの時間の使い方に常に疑問を感じている。今の時期、午後6時から7時といえば、山が一番美しい姿を見せる時間帯なのだ。



今回の林間学校は、さまざまな活動で非常に盛りだくさんだったが、自由時間も豊富に確保した。宿舎の周辺はスキー場なので、今の時期は広大な草原になっている。1日目と2日目の午後から夕方にかけて、子どもたちはこの草原で思い切り遊んでいた。



わが国の自然景観には「草原」というものが少ない。草の中で遊ぶという体験は子どもたちにとって、非常に新鮮なことだったようだ。特に「これをしなさい」という指示は一切出さなかった。完全な自由時間だ。午後3時から夕食前まで、宿舎周辺の草原には、子どもたちの声が常に響いていた。



宿舎の方をお願いして、夕食は午後5時にしていた。少し早いようにも感じるが、オリエンテーリング、自然遊びと、相当に体を動かしていたので、この時刻で正解だった。夕食を午後5時にしたのは、午後6時過ぎに、夕暮れの山を歩かせたかったからだ。



夕食の片付けが終わると、子どもたちはもう一度外に出て、宿舎周りの草原を走っていた。



丘の中腹にみんなで座って、刻々と変化する高原の風景をゆっくり眺めた。昼と夜の狭間の静寂。山が一日で最も美しい姿を見せる一瞬だ。宿舎の左側には、うっすらと遠く浅間山も見えていた。子どもたちは、この恐るべき美しい光景に、何を感じただろうか？